

平成21年度独立行政法人福祉医療機構長寿社会福祉基金（一般分）報告書

認知症高齢者の在宅介護の家族に対する パーソン・センタード・ケアに基づく 支援プログラム開発事業

報告書



平成22年3月



社会福祉法人 仁至会
認知症介護研究・研修大府センター

目次

はじめに	1
事業実施体制	3
第1章 本事業の概要	4
1. 問題の背景	4
2. 事業の目的	4
3. 事業計画	4
(1)「大府センター式コミュニケーションパック」の完成	4
(2) パーソン・センタード・ケアの啓発・普及のための講演会の全国展開と小グループ研修会の開催	5
(3)「大府センター式コミュニケーションパック完成版」の全国的普及のための説明会	5
4. 期待される成果	5
第2章 「大府センター式コミュニケーションパック」 ー 試行版から改良版、完成版の作成までの取り組み ー	6
1. 試行版の評価と改良のためのアンケート調査	6
(1) 説明書について	6
(2) 認知症の医学的理解	7
(3) パーソン・センタード・ケアの理解	8
(4) 相談シート・使い方マニュアル	9
(5) 相談シート	10
2. 改良版の作成	11
第3章 「大府センター式コミュニケーションパック」完成版	11
1. 概要	11
2. 認知症の医学的理解の表面と裏面	13
3. パーソン・センタード・ケアの理解の表面と裏面	22
4. 相談シート	28
(1) ねらい	28
(2) 相談シートの活用例	29
第4章 認知症とパーソン・センタード・ケアの啓発・普及のための 講演会・説明会の全国展開と小グループ研修会の開催	31
1. 概要	31
(1) 講演会とアンケート調査	31
(2) 小グループ研修	31
(3) 教育研修	31
2. パーソン・センタード・ケアの啓発・普及の講演会・説明会の全国的展開	31
(1) 愛知県内4地区での講演会	31
(2) 大阪、東京での講演会	33
(3) 札幌、仙台、熊本、富山、福山、大阪でのコミュニケーションパック説明会	33
(4) 講演内容	34
(5) 講演会参加者へのアンケート調査	40
1) 講演会についてのアンケート	40
2) 家族介護、施設介護についてのアンケート	41
3. パーソン・センタード・ケア実践のための小グループ研修会	43
(1) 小グループ研修会の開催	43
(2) ファシリテーターの教育研修会	44
第5章 愛知県内の地域包括支援センターの実態調査 ー アンケート調査 ー	45
1. 背景	45
2. 目的	45
3. 対象ならびに方法	45
4. 結果	46
5. 考察	56
巻末資料	60

認知症ケアの目指すべき方向は、この10年来、世界的にパーソン・センタード・ケアの考え方が主流になった。1990年代の初めに英国のブラッドフォード大学のトム・キットウッド¹⁾により提唱されたパーソン・センタード・ケアの理念は、それまでの提供者側に都合の良い「業務効率を重んじた画一的なケア」から「認知症の人の視点に立ち、その人らしさを大切にするケア」へと、ケアについての考え方を180度転換させる契機になった。「業務中心のケア」から「利用者を中心としたケア」へというこの新しい考え方は、トム・キットウッドが介護の現場で何千例というケースを観察した経験に基づいている。痴呆（認知症）という疾患を知能も人格も崩壊する絶望的な病気と考え、目の前の現象をすべて安易に「痴呆のせい」にしていた従来の「業務中心のケア」が、認知症の人を混乱させ、症状や状況を悪化させていることに気づいた彼は、パーソン・センタード・ケアの理念に到達し、その実践のためにケアの質を観察・評価し、それをケアの質向上にフィードバックさせる「認知症ケアマッピング、Dementia care mapping DCM」法を開発した。

パーソン・センタード・ケアとは、利用者を中心にしたケア、あるいは、その人らしさを大切にするケアと翻訳されているが、もっと深い意味がある。「認知機能の障害により言葉で自分の気持ちや考えをうまく表現できない認知症の人の言動には、それが一見どんなに不可解に見えても、何かの意味があると考えて、その人の内面世界に入り、そのニーズを洞察して行うケア」がパーソン・センタード・ケアである。さらに「その人を取り巻く人々や社会とかかわりを持ち、人として受け入れられ、尊重されていると、本人が実感できるように、共に歩いていくケア」という意味をも含む。

この考え方は、日本でも室伏君士先生が独自に認知症高齢者ケアの理念として、既にトム・キットウッドの論文発表より以前の1985年に提唱している²⁾。当時は認知症が痴呆と呼ばれていたが、「痴呆性老人の精神的ケア」につき、こう述べている。老人の生き方に合わせること（受容と理解）、老人の対人関係に合わせること（なじみの人間関係）、老人のペースに合わせること（老人の立場に立つ）、老人の感じ方や考え方に合わせること（説得よりも納得を得る）、老人のレベルに合わせること（われわれのレベルではない）、老人に状況を合わせること（その人にふさわしい場を設定する）、老人の年代に合わせること（生きている世界を共にする）、老人の間違いに合わせること（その中に老人の心や主張がある）。

これはまさにパーソン・センタード・ケアの理念そのものである。我が国にパーソン・センタード・ケアの概念が初めて紹介されたのは、2000年の第1回痴呆ケア学会の長谷川和夫先生による「痴呆ケアの現在と未来」と題した特別講演で、そこでトム・キットウッドの著書¹⁾が紹介された。のちに認知症ケアの理念として長谷川和夫先生により室伏君士先生の考え方とともに、パーソン・センタード・ケアの考え方が紹介され³⁾、広く知られるようになった。

また平成15年度から3年間、厚生労働省の老人保健健康増進等事業の研究事業として、パーソン・センタード・ケアとDCM（痴呆介護マッピング）法の有用性や研修・普及に関する研究事業が認知症介護研究・研修大府センターの手で行われ、その成果の一部は水野により報告されている⁴⁾。平成19年度からは認知症介護研究・研修大府センターが英国ブラッドフォード大学のストラテジック・パートナーになる契約を結び、日本でのDCM法の研修・普及に努めている。

近年、様々な認知症の非薬物療法が登場している。その一つは、アメリカ、スウェーデンに次いで近年日本でも普及しているナオミ・フェイルにより開発された認知症高齢者とのコミュニケーション法、「バリデーション」であるが、これも基本的にはパーソン・センタード・ケアの理念に根ざしている。認知症高齢者の行動の裏には必ず理由があると考え、尊敬と共感をもって関わるという基本的考え方はまさにそうである。

本事業では、「認知症の在宅介護家族に対するパーソン・センタード・ケアに基づく支援プログラム」として、大府センター式コミュニケーションパックを開発した。これはパーソン・センタード・ケアの理念を盛り込み、かつ地域包括ケアの担い手の中核と位置づけられている地域包括支援センターが認知症介護家族との相談場面で活用しやすいものにするを目的とした。「認知症の医学的理解」、「パーソン・センタード・ケアの理解」、「相談シート」の3部から構成されている本コミュニケーションパックが地域包括支援センターの方々の批判に耐え、使用して頂けることを心底から願っている。

現在、パーソン・センタード・ケアの用語は広く浸透したものの、まだ理解は不十分である。最近、その専門的な書籍^{5,6,7)}が出版されるようになったが、まだ数は少ない。このコミュニケーションパックは元来の目的のほかに、パーソン・センタード・ケアに関する教育の簡易的な教材としても活用できる。大府センター式コミュニケーションパックがパーソン・センタード・ケアの理念の普及と我が国における認知症ケアの質の向上に少しでも役立てば望外の幸せである。

文献

- 1) Kitwood T., Bredin k. Towards a theory of dementia care: personhood and well-being. Aging Soc. 1992;12:269-287, 1992
- 2) 室伏君士：痴呆老人の理解とケア。金剛出版、東京（1985）。
- 3) 長谷川和夫：認知症ケアの理念。（日本認知症ケア学会編）改訂・認知症ケアの基礎；認知症ケア標準テキスト、19-28。ワールドプランニング、東京（2006）。
- 4) 水野 裕：Quality of care をどう考えるか。Dementia Care Mapping (DCM) をめぐって。老年精神医学雑誌。15:1384-1391, 2004.
- 5) Kitwood T 著 高橋誠一訳：認知症のパーソン・センタード・ケア—新しいケアの文化へ。筒井書房、2005.
- 6) 水野 裕：実践パーソン・センタード・ケア。認知症をもつ人々への支援のために。ワールドプランニング、2008.
- 7) 鈴木みずえ：Person-centered care. 認知症ケアマッピングを用いたパーソン・センタード・ケア実践報告集。クオリティケア、2009.



事業実施体制

■検討委員会

委員長	柳 務	(認知症介護研究・研修大府センター センター長)
委員	大島 伸一	(国立長寿医療センター 総長)
	祖父江 元	(名古屋大学医学部神経内科 教授)
	柿本 誠	(日本福祉大学社会福祉学部保健福祉学科 教授)
	山本 楯	(知多郡医師会 会長)
	神谷 卓男	(知多北部広域連合事務局長)
	尾之内直美	(認知症の人と家族の会愛知県支部 代表)
	塚本 鋭裕	(大府西包括支援センター 管理者)
	中澤 明子	(社会福祉法人せんねん村 施設長)
	小野寺敦志	(国際医療福祉大学大学院 准教授)
	矢吹 知之	(認知症介護研究・研修仙台センター 主任研究研修員)
	小長谷陽子	(認知症介護研究・研修大府センター 研究部長)
	中村 裕子	(認知症介護研究・研修大府センター 主任研修指導主幹)
事務局	森坂 清	(認知症介護研究・研修大府センター 事務部長)
	汲田千賀子	(認知症介護研究・研修大府センター 研究員)
	児玉しげみ	(認知症介護研究・研修大府センター 事務職員)

■講演等企画作業部会

委員長	水野 裕	(認知症介護研究・研修大府センター 顧問研究員)
委員	阪野嘉代子	(知多北部広域連合事業給付係長)
	田中千枝子	(日本福祉大学社会福祉学部 教授)
	高見 雅代	(国立長寿医療センター ケースワーカー)
	井上 豊子	(介護老人保健施設ルミナス大府 看護部長)
	大嶋 光子	(認知症介護研究・研修大府センター 非常勤職員)
	長谷川久美	(グループホームルミナス大府 管理者)
	齋藤 妙子	(介護老人保健施設みず里 サービス統括部長)
	金山まゆみ	(介護老人保健施設相生 副施設長)
	深見 重夫	(グループホームきんもくせい 管理者)
	齋藤 隆司	(あいち医療専門学校 専任講師)
	井 真治	(社会福祉法人サンライフ・サンビジョン本部)
	村田 康子	(NPO法人その人を中心とした認知症のケアを考える会 代表)
	大矢 日信	(グループホームたけのこ 管理者)
	塚本 鋭裕	(大府西包括支援センター 管理者)
	久野 恵三	(社会福祉法人西尾地域包括支援センター)
	山下 友彦	(障害者支援施設サンサン大府 支援課長)
	中村 裕子	(認知症介護研究・研修大府センター 主任研究指導主幹)
	本田 恵子	(認知症介護研究・研修大府センター 指導員)
	汲田千賀子	(認知症介護研究・研修大府センター 研究員)
事務局	児玉しげみ	(認知症介護研究・研修大府センター 事務職員)

「大府式コミュニケーションパック」執筆者一覧

柳 務	(認知症介護研究・研修大府センター センター長)
汲田千賀子	(認知症介護研究・研修大府センター 研究員)